地方に駐り、翌會昌二年正月に至りては、遂に邊境を侵擾するに至りしが如し、即ち新唐書本紀には

會昌二年正月「回鶻寇横水柵、略天德振武軍[一八八]

と記し、同書回鶻傳には

明年[一八九]回鶻奉主至漠南、入雲朔、剽横水、殺掠甚衆、轉側天德振武間、盜畜牧自如

と見ゆ、通鑑によれば此の翌二月、可汗は更に使を遣して振武城を借らんことを請ひしが、武宗は「遣内使楊觀、賜可汗書、諭以城不可借、餘當應接處置」と記せり、而して唐はかゝる間にも尚可汗を懷けて平和の間に事を處せんとしたるが如く、舊唐書本紀によれば同年三月「遣使冊廻紇烏介可汗」と見ゆ、然れども此の冊命は、可汗が尚邊を侵して止まざりしが爲に、事實に於ては行はれず、唐も亦初より可汗の態度如何によりて之を行はんとし、此の意を含ましめて使を發したるものにして、新唐書回鶻傳に「又詔使者、持冊往、潛稽其行須變」と記し、唐會要には「冊爲可汗、遣將作少監兼御史中丞苗鎮（誤縝之）、持節駐于河東、待其底定、然後受之」と記し、通鑑も同様の次第を載せ「縝竟不行」と記せり。

當時敗殘の回鶻の一部が、唐に對しては尚侮る可らざる勢力を有したるものなるべきは、唐がかゝる態度を執りしことよりしても略ぼ推測せらるゝ所なるが、會〻回鶻部中に於る内訌は、自から大に其の勢を殺ぎ、遂に唐をして之に乘ぜしめ、全く回復す可らざる運命を招致するに至れり、初め回鶻の潰裂するや其の一部の酋首なる嗢沒斯[一九一]の天德に至りしことは、既に屢〻引用せるが如く、諸書に明記せらるゝ所にして、李德裕の奏によれば、其の天德に至りしは、開成五年九月と見るべきこと亦前に述べたるが如し、而して德裕の奏には只だ嗢沒斯等と記せども、